

岡山県支部会報

発行／（社）中小企業診断協会

岡山県支部

2010年12月 第27号



公益法人制度改革と診断協会



支部長 額田 信一

＜はじめに＞

去る11月4日に、島根県松江市で行われた中国ブロック会議に参加させていただきました。会議には、本部から新井会長、水元専務理事と小野さんが参加され、本部からの状況説明の後、中国5県の役員の方々との意見交換が行われました。主な内容は、①事業仕分けの状況、②公益法人制度改革の方向性、の二点でした。

そこで、本稿では、これらの内容についてご報告させていただきます。

＜事業仕分けの状況＞

平成22年6月に、行政刷新会議から、「中小企業診断士の資格は国家資格とする意義があるのか?」、「中小企業診断協会が診断士試験を独占的に実施することに妥当性があるのか?」という問題提起がなされました。

これを受けて、総務省内部での自己仕分けが行われ、次の点を検討するよう指摘がありました。

- ① 試験費用、資格維持費用の軽減
- ② 試験実施業務の株式会社への開放
- ③ 試験事務(定型業務)の競争入札
- ④ 更新研修機関の一社指定

今後、関係省庁からのヒアリングや診断士への調査を経て、政府の方針が決まる予定です。

＜連合会方式への移行＞

公益法人制度改革に伴い、診断協会も組織を変える必要があります。現在検討されている

のは、「連合会方式」です。

現在、会員の皆さんは、個人として本部会員になっておられます。支部は、本部からの助成金(本部会費の一部を還付)と支部会費で運営されています。

連合会方式になると、会員の皆さんは個人としては「岡山県中小企業診断協会(仮称)」の会員になっていただき、その単県の組織が全国組織(現在の本部に相当するもの)の会員になるという、二段構えの構造になります。

＜組織変更への課題＞

このような組織にする場合、単県組織の事務局の負担が重くなることや、現支部の剰余金を新たな単県組織へ移す方法、本部の会員資格を個人から団体へ変更する方法など、多くの検討課題があります。

本部から送られてくる『企業診断ニュース』12月号の56-58ページには、この件について新井会長のメッセージが掲載されています。会員の皆様にもぜひ一度、この記事をお読みいただき、診断協会の置かれている状況をご理解いただきたいと思います。

＜おわりに＞

上記のような課題はありますが、たとえ協会組織がどう変わろうと、「地域中小企業の発展に貢献する」という我々の使命に変わりはありません。支部会員の皆様には、今後とも相互研鑽と協働の場づくりにご協力いただければ幸いです。

理論政策更新研修開催

日時：平成22年10月30日（土）13:00～17:00

場所：岡山コンベンションセンター ママカリフォーラムレセプションホール

〒700-0024 岡山市北区駅元町14番1号

Tel. 086-214-1000

受講人数：152人

10/30(土)に岡山コンベンションセンターにて理論更新研修が実施されました。総勢150名を超える参加者となりました。

講師は難波貢司氏（中国経済産業局中小企業課課長補佐）、安東茂氏（岡山県産業振興財団技術支援部参与）、近藤次夫氏（中小企業再生支援協議会プロジェクトマネージャー）のお三方にご担当いただき、貴重な学びの場となりました。

夜の懇親会も大いに盛り上がり、他支部からの参加者との交流も生まれました。



香川県支部との合同研修会実施

毎年恒例となり、ますます熱を帯びて盛り上がりつつある香川県・岡山県両支部の合同研修会ですが、今年は香川県開催の回でした。「本年は両支部の会員間の深い交流を図ることで、お互いに刺激を与え合って啓蒙啓発に努めるとともに、コラボレーションの機会を模索することを目的に開催いたします」とのご案内を香川県支部からいただきました。

要は、香川県内の企業を視察したり、観光地をまわったりということだけでなく、両支部の人と人との深い交流をしようという趣旨で、岡山県支部としても大歓迎、大賛成ということで、まさに深い「交流」をしてきました。今年は岡山県支部からは11名の参加でした。

10月17日の日曜日、香川県高松市の「高松シンボルタワーeとぴあ・かがわBBスクエア」にて、両支部メンバー混在のグループ分けで、ディスカッション、発表を行いました。これは大いに刺激になりました。支部のあり方、運営についても参考になることが多く、実に有意義な時間でありました。研修会の後は懇親会ということで港のそばの海が見えるレストランでさらに人と人との交流も深めました。運営をご担当いただいた香川県支部の皆様到大感謝です。



とてもいいものです。今回、企業内診断士の方も参加していただきやすいよう日曜開催にしましたが、来年もこの形（土曜か日曜開催）がよいように思います。すばらしい場ですので、まだ参加したことのない方はぜひ、とにかく一度参加されることをおすすめします。

来年は岡山県開催です。

担当理事 児玉健治

会員投稿記事

全部原価計算と直接原価計算による差異

会員 窪田 司

1. 全部原価計算

全部原価計算とは、製品原価を計算する際に、変動費と固定費の区別なく、固定費の配賦を通じてすべての費用を製品に反映させて原価を計算する方法のことである。

全部原価計算による損益計算書では、たくさん製造して在庫を増やしたほうが、利益額が増加するという問題点がある。

(図1) 全部原価計算の利益額変動

製品A	変動費(1個あたり)	5
	固定費(年間)	100

	1個生産	10個生産
売上高	150	150
売上原価	105	15
うち固定費	100	10
売上総利益	45	135

表面的には、(図1)のとおり、たくさん製造したほうが、利益額が大きくなる。しかし、差額は売上原価ではなく、棚卸資産に計上されただけである。

このような問題を包含しているものの財務会計においては、売上高の計上と費用の計上の時間的一致というメリットもあり、全部原価計算が採用されている。

2. 直接原価計算

直接原価計算とは、製品の製造費用を固定費と変動費に分類し、変動費を中心に原価を計算、利益計画において経営者が管理することのできない固定費を期間費用として処理する原価計算の手法の一つである。

直接原価計算の考え方は、経営状態の把握や意思決定のための管理会計の概念である。直接原価計算において固定費は期間費用として扱うため製造数に係わらず利益は一定であ

る。

(図2) 直接原価計算の利益額変動

製品A	変動費(1個あたり)	5
	固定費(年間)	100

	1個生産	10個生産
売上高	150	150
変動費	5	5
貢献利益	145	145

(図2)のとおり、製造数に係わらず、利益は一定である。

直接原価計算にもデメリットはある。まず、ひとつは固定費と変動費を分けることが難しいこと、もうひとつは固定費を全て期間費用として見るため、製造原価を正確に把握できないことである。

3. まとめ

双方の利益額の変動については前述のとおりであり、双方の原価計算手法には違いがある。

いずれの原価計算手法も万能ではなく、欠点を持っている。各原価計算手法の特徴を把握し、目的を達成しうる原価計算手法により、原価計算をおこなうべきである。

利益を算出するためには、売価－原価をコントロールすることが必要である。そのためには、自社でコントロールできる原価を把握し、コントロールすることが肝要である。



FMEA (故障モードと影響解析)**会員 藤原 敬明**

現在の円高によって、中国等の新興国への海外生産にはずみがかかったように見受けられます。単に、生産のみをとれば、もはや新興国とコストでは競争に負けてしまうと言われています。しかしながら、開発といっしょになった生産活動ではまだまだ競争力はあると考えられます。いまどき、5S(整理、整頓、清掃、清潔、躰)でコストダウンが可能と言う話があり、嘘だろうと考えてしまいます。でも、5Sを通して情報を整理していけば、そこには開発と生産を連動させた情報管理が浮かびあがってきます。

今回は CAE(Computer Aid Engineering)について書きました。今回は FMEA(故障モードと影響解析)について書きます。製品とその生産プロセスの潜在的エラーの可能性を洗い出し、それによって引き起こされる結果を想定します。なお、引き起こされた結果が、新たなエラーを引き起こす可能性は、FTA(Fault Tree Analysis)として分析します。製品について、その結果をまとめたものが、製品 FMEA です。生産プロセスについて、工程の順番に結果を纏めたものが、工程 FMEA です。そのエラーの重大度、発生頻度、検出度によって評価します。高い評価の出た項目については、潜在的エラーの可能性を低く抑えます。また、エラーが発生しても、深刻な事態に陥らない、もしくは連鎖的なエラーを引き起こさない対策が重要です。工程 FMEA では、設備による対策としてポカヨケが使われます。ちなみにポカヨケは、コンサルタント出身の新郷重夫氏が考え出された対策です。今でも、その成果により新郷重夫氏は米国でも評価されています。

ポカヨケが設定できない場合は、作業者の熟練度を管理します。それらによって、誤組

立等を防止します。ISO で使用される” 力量” は、コンピテンスであり、この言葉の方が馴染みあるかもしれなません。

設計 FMEA と工程 FMEA は、過去の失敗例が参考になります。通常、設計 FMEA の結果を受けて、工程 FMEA が作られます。生産部門のみの生産工場では、工程 FMEA から入ってもよいと思います。既に設計された部品や製品の設計変更は、容易にできないからです。

工程 FMEA を基にして工程設計が行なわれ、コントロールプランと検査基準書が作られます。コントロールプランは製品と工程の両方を管理するものです。よくできた QC 工程表はコントロールプランと同等といえます。工程 FMEA に基づいて作成されて、コントロールプランになると考えます。

コントロールプランは、工程フローチャート、品質特性、条件管理、異常処置などについて書かれています。誰が(Who)、いつ(When)、何(What)を、どのように(How)検査するかが具体化されています。このコントロールプランに基づいて、作業標準書と機械・設備管理書が書かれます。最近では、仕事に対する技量が重視されるようになり、作業指導書と作業者の仕事に対する熟練度の把握が重視されるようになっています。

不良発生時には、単に作業標準書のみを見直すのではなく、工程 FMEA にまで遡って改善策を考えることが重要である。その時、失敗の事例として記録に残すことも重要です。

これらの開発から生産までを効率よく行っていくことが、今後の日本での生産を残す方法だろうと考えられます。多くの中小企業は、技術は高いが、ソフトな面では立ち遅れているように見受けられます。これからの中小企業は、受注内容の確認から生産までをいかに効率化していくかにかかっていると考えます。つまり、顧客の期待、ニーズ、要求事項を理解し、生産につなげていく技術です。

上海視察団に参加して

会員 信岡 義邦

岡山県支部の恒例行事・海外視察の22年度の行き先は、いま最もHotな中国・上海。中国は県下中小企業の新たな市場として、また商品・材料の仕入・調達先として、魅力を持った国であり、特に上海は中国随一の商都であるとともに、万博開催中で世界中の関心を集めていると言って過言ではない。

日程は9月23～26日の飛石連休を含めた3泊4日。10名（内、ゲスト1名）が参加した。以下、見聞した主な内容を、最も代表的と思われる岡山県上海交流事務所長のレクチャーを中心に、独断で報告しよう。

岡山県上海交流事務所長池田稔氏より、最近の中国経済動向・対外貿易・日中貿易の現状について、統計資料を交えたレクチャーを受けた。特に印象的だった事項は次の通り。

①歴史は繰り返すか？

日本は64年東京五輪と70年大阪万博を契機に高度経済成長を果した。その40年後、中国では08年北京五輪と10年上海万博を契機として高度成長期にある。08年には内需拡大策を、続いて内陸部の地方都市振興策から雇用創出を図りながら、地域間格差や貧富の格差の是正に努めている。中国では来年の2011年に新五ヶ年計画を発表するが、その内容に「所得倍增計画」を盛り込む予想だ。

②『本物』は必ず生き残れる

上海や北京市場は、世界の超一流のブランドが戦い合うメジャーリーグ。日本のブランドでは、トヨタ・ホンダなどホンの一部のものしか太刀打ちできない。しかし中国市場でも、地方都市（マイナーリーグ）であれば、日本の高い技術（品質・サービス・心遣い・作法等を含む）が評価され、成功例も多くある（平和堂＜滋賀・スーパー＞、黒猫ヤマト等）。『本物』は必ず生き残ることができる。

③経営資源（人・物・金）の投入

岡山の起業家が中国で、例えば『桃太郎印』の時計を始めるなら、品質（モノ）に自信があっても、優れたヒト（セールスマン）とカネ（PR・販促ツール用資金等）を十分用意しないと決して成功しない。

④不動産バブルはハジケないか？

日本が経験したような不動産バブルがハジケルことはないという見方が多い。その理由は日本と違って中国では土地の所有権は国家にあり、個人は借地権を持つに過ぎないからである。それに加えて施策面で、不動産投機

熱の鎮静化を図るため税制などを講じ始めている（共産政権だから徹底的に）という。

○上海万博見学

我々一行の受入れ窓口である上海市人民対外友好協会のお取り計らいで、中国館・中小企業館・GM館にVIP扱いで見学できた。各パビリオンとも未来像を大型スクリーンに映画で見せていて、大阪万博を思い出させた。

○中国銀行上海駐在事務所長ヒアリング

同行所長大木正和氏より、中国の経済情勢から同行駐在事務所の概要や活躍ぶり（商談会やビジネスマッチングなど）を拝聴した。

○上海神原汽船（常石集団）訪問

宮崎董事長より同社の日中間定期コンテナ航路や、物流サービスの概要を伺った。

○終わりに

この視察の趣旨は、上海を視察することで、県下の中小企業者に対する現実的かつ有益な海外展開の提案に資することであった。尖閣漁船問題が影響してかフジタ社員拘束事件が滞在中に発生したが、我々は『対日批判』を受けることなく、有意義な視察ができた。高層建築ラッシュや高速道路網、そして街に溢れた人達に「高度成長期のパワー」を、懐かしく、かつ羨ましく感じた。その他、紙面の都合で割愛した事項は、後に論文集など機会を改めて報告ことにしよう。



無料経営相談実施

平成22年9月16日（木）しんきん合同ビジネス交流会（コンベックス岡山）で無料相談を開催しました。

しんきん合同ビジネス交流会は今年で「第6回」を迎える県下最大のビジネス交流会で、おかやま信用金庫他県内全信用金庫、（財）岡山県産業振興財団、日本政策金融公庫の取引企業先など約3,200人が来場、378社が個別ブースを設置し個別商談、ビジネスコンテストなどを行いました。

当支部も毎年参加しており、支援機関コーナーに無料相談ブースを設置し経営革新や販売促進について7社より相談を受けました。

日 時：平成22年9月12日（水）13:00～17:00

場 所：コンベックス岡山 大展示場・小展示場

参加者：理事 氏家 宏 氏 理事 松田眞司 氏

平成22年度中国ブロック事務連絡会議

日 時：平成22年11月4日（木）13:30～17:30

場 所：ホテル白鳥 松江市千鳥町20

参加者：本部 会長 新井信裕 氏、専務理事 水元明則 氏、
会員事業部 小野秀人 氏

各支部 支部長ほか11名。岡山県支部より額田支部長、山田専務理事が参加しました。

内 容：本部より公益法人問題対応について、今夏以降の診断協会を取り巻く環境変化の経緯の報告がありました。

平成22年度海外視察報告 「中国・上海」

今年度の診断協会岡山県支部海外視察は、9月23日から26日までの日程で、中国・上海に行っていました。尖閣問題で両国の関係が揺れるまただ中での中国訪問だったので、少々緊張感もありましたが、行ってみると上海市人民政府の方からも「民間レベルでの経済交流は大歓迎」とあたたかく迎えていただき、無事に有意義な視察を行うことができました。

まず、岡山県上海事務所、中国銀行上海駐在員事務所、上海神原汽船にて、中国の市場環境や日本企業が進出するにあたっての留意事項など貴重な情報をいただき、意見交換をさせていただくことができました。

中国は生産拠点としてこれまで注目され、多くの日本企業が進出していますが、上海の街を見ればすぐに巨大で極めて魅力的な市場であることがわかります。東京の銀座を何倍も大きくしたようなショッピング街路は必見です。ただし、ここは野球の世界で言うとメジャーリーグなので、日本でイチロー、松井クラスの活躍をしたプレイヤーでなければ戦えない極めて競争が激しい市場でもあります。岡山県の中小企業にとっての可能性ある市場になればと思っていましたが、現実の厳しさをあらためて知ることとなりました。しかし、可能性がないわけではありません。中国には人口が1千万人を超える都市がごろごろあります。所得がどんどんあがっており、北京や上海だけでなく、急成長している魅力的な市場がたくさんあるのです。チャレンジする価値

値は十分すぎるほどあります。

上海万博と東方明珠電視塔も「視察」してまいりました。確実に反感を買いそうなので詳細はご報告できませんが「素晴らしい」体験でした。また、「ここはどここの国!？」と幻惑される街並みの上海新天地は一番のお気に入りスポットになりました。

海外視察に行つて毎回思うのですが、いろいろ理屈を並べ立てて視察の成果を文章でまとめて分厚い報告書を作ることよりも、とにかく「行つてその国を感じることに意義があるのではないのでしょうか。その国の人と語り、食べて、歩いて、楽しんで、からだ全体でその国を感じるために行くのが診断協会岡山県支部の海外視察ではないかと思ひます。それで、なんとなく理屈抜きで「深い人」になれるような気がします。

◎今回の海外視察に参加して「深い人」になった方々（50音順・敬称略）

安東 官、入矢和政、垣本 輪、児玉健治、杉原茂樹、多田土喜夫、中原富二雄、信岡義邦、藤井愛也、吉原早苗



海外視察担当理事 児玉 健治

平成22年度支部研修実施

1. 開催日時：11月21日（日） 9時30分～15時00分
2. 会場：ゆうあいセンター 2階研修室
3. 参加者：20名
4. 実施テーマ：続「先輩から後輩へ！熟練診断士の経験とノウハウを学ぶ」
5. 実施内容：昨年に引続きプロ診断士の民間分野進出支援研修を開催しました。3名の先輩方から、長年積み重ねてきた経験と知恵の伝授で、民間分野進出を希望する後輩の背中を押していただきました。講師の専門分野の紹介、成功・失敗談を織り交ぜた体験談で研修会が進み、講師の先生方には、これを機会に受講者からの質問に気軽に応じていただけるようお願いしました。
6. 講師とプログラム



講師	プログラム
蓮室 光雄 先生 白神 康信 先生 高渕 宣雄 先生	私の診断士暦25年を振り返って 成功させる研修会・セミナーの壺 食えるコンサルの顧問契約とスポット収入のバランス術



蓮室先生



高渕先生



白神先生(右)の実演

担当 常任理事 黒江 正行・理事 黒田 俊彦

平成22年度診断実務従事事業

本事業は、今後しばらくの間「商店街」をテーマに実施する計画です。県内商店街を毎年順番に指導、ノウハウを蓄積していこうという目論見です。今年度は岡山市内の某商店街を対象に、中期ビジョン策定のための基礎調査として実施、商店街の新しい運営形態、広告等の収益事業の研究を行って、空き店舗対策などの施策を効果的に実施できる体制づくりが最終目標。参加の皆さんの頑張りで、当初の予想以上の成果が出そうで楽しみです。

担当理事 安原 朋彦

フォーラム活動

このフォーラムは、会員の皆様方にプロコンサルタント、企業内コンサルタントの研鑽の場、そして、人脈づくりの場として利用していただくためのものです。多くの方の参加をお待ちしております。（開催日時は第2日曜日の9時30分～12時）

日程	講師	テーマ
第4回フォーラム 8月8日	(有)スタンバード 代表取締役 石原浩巳 氏	ソーシャルメディア時代の Twitter 活用法
第5回フォーラム 9月12日	(株)ホテルリゾート下電、(株)下電ホテル 代表取締役 永山久徳 氏	「旅館の若旦那」というお仕事
第6回フォーラム 11月14日	(有)三蔵農林 代表取締役 片岡信之 氏	「農業経営（マッシュルーム生産、販売）と地域の雇用促進」
第7回フォーラム 12月12日	ゆめおい研究所(株) 代表取締役 太田文男 氏	地域資源活用事業・農商工等連携 事業のエッセンス
第8回フォーラム 1月16日 (新年会)	ナカシマメディカル(株) 代表取締役社長 中島義雄 氏	パネルディスカッション 「技術開発と外部連携(仮)」 パネラー 中島義雄 氏 額田信一 氏
第9回フォーラム 2月13日	(株)企業競争力研究所 代表取締役 高杉康成 氏	価値づくりの技術経営
第10回フォーラム 3月13日	会員 竹原正孝 氏	ワークライフバランス研究会活動 報告

来年度のフォーラム予定（時間は午前9時半から12時まで）

第1回 4月10日（日）	第2回 6月12日（日）
第3回 7月10日（日）	第4回 8月7日または21日（日）
第5回 9月11日（日）	第6回 11月13日（日）
第7回 12月11日（日）	第8回 1月15日（日）新年会
第9回 2月12日（日）	第10回 3月11日（日）

フォーラムで発表したい方は、ぜひ、事務局までご連絡ください。
また、講師の方を紹介していただいてもかまいません。
フォーラムへのご参加をお待ちしております。

支部研究会活動報告

福祉ビジネス研究会

担当：川路 隆志

5月に例会を開催し、メンバーの活動報告と今年度の活動方針について議論しました。

7月には、ゆうあいセンター副所長石原氏をお迎えし、「NPOの現状と診断士に求められる役割」と題して、勉強会を開催いたしました。

今後は、県内福祉ビジネスの視察を2月ごろ実施し、今期で活動を終了する予定です（日時未定）。

地域活性化研究会

担当：松本 直也

平成22年後半の当研究会活動は、概ね月一回の定例会を実施し地域活性化と中小企業の関わりについての情報収集や意見交換を中心に活動いたしました。

8月には地域活性化に寄与している経営者にヒアリングを実施しました。

7月11日（日） 定例会 8月15日（日） 定例会 8月23日（月） 企業視察

9月12日（日） 定例会 11月7日（日） 定例会 12月26日（日） 定例会・忘年会

平成23年は、これまでの研究結果を一步進める活動を行います。具体的には、大学生が働きたい職場像と中小企業が期待する学生像のギャップについての研究を行いたいと考えております。

ISO研究会

担当：増田 泰三

ISO研の今回のテーマは「ISO9004:2009 品質マネジメントシステム—パフォーマンス改善の指針」の研究です。「ISO9001」の解説である「ISO9004」が、2009年に日本の意見が反映されて大幅に改定され、経営体質改善の指針となりました。今年は、まず皆でISO9004規格の勉強会をしました。来年度は、具体的な企業への適用を勉強していく予定です。

2010年11月17日に中小企業診断協会のシンポジウムが東京であり、「診断協会各支部による調査・研究」の分科会で、昨年の研究成果の「中小企業のISO22000（食品安全マネジメントシステム）入門」を発表しました。

ワークライフバランス研究会

担当：竹原 正孝

22年度は、岡山県支部マスターセンター補助事業として「ワークライフバランスの効果的な運用の研究」についての研究活動を行っています。

研究会は、中小企業診断士、社会保険労務士の集まりで、それぞれの知識、活動領域を補完し相乗効果を発揮しています。

研究活動として、「おかやま子育て応援宣言企業」約160数社にアンケート調査を行い、65社から回答がありました。

回答のありました企業11社にヒアリング調査に伺い、導入時間問題点、課題、解決策を明らかに致しました。

年度末には報告書として報告できるよう活動しております。

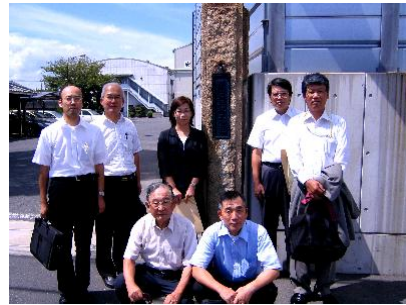
循環ビジネス研究会

担当：黒江 正行

9月6日（月）、大変暑い日に(株)岡山製紙（岡山市南区浜野）、中四国セキスイハイム工業(株)（岡山市東区九幡）を視察させていただきました。

岡山 製紙では古紙の再生を見学しました。古紙の再生といえどトイレットペーパーと思いがちですが実際は違っていました。事業は「板紙事業」と「美粧段ボール事業」があり、「板紙事業」は物流を支える段ボール製造用の中芯原紙や、紙・布、フィルム系などを収める紙管原紙を製造しています。「美粧段ボール事業」は電化製品、青果物、衣料品などの個装箱や贈答箱などの美粧段ボールの製造です。当社では産業廃棄物処理業者が持ち込んだ廃木材を火力燃料として活用していました。

中四国セキスイハイム工業では、木質系ユニット住宅の製造工程を見学してきました。生産・販売一体化の取組みによる効率化と品質向上、それに業界でも厳しいといわれている分別収集とリサイクルについてお聞きしました。生産工程は思った以上に人手による作業が多いとの印象が残りました。



コミュニティビジネス研究会

担当：黒田 俊彦

本年度コミュニティビジネス研究会は、会員の方から活動課題を持ち寄り検討する会議を予定しております。

会議開催については、後日連絡いたします。

知的探訪研究会

担当：加藤 圭一

中原富二雄会長の指示により、知的探訪研究会の活動報告を致します。本会は中小企業診断協会岡山県支部の最近設立された研究会として誕生しました。登録会員は18名となっています。会長は中原富二雄副支部長、世話人は加藤圭一、連絡係は渡辺昌平さん、記録係は垣本輪さんです。知的探訪研究会と言うと何か分からない会ですが、簡単に言うと企業見学会です。

現在まで見学したのは6月に実施した「三菱自動車工業（株）水島製作所」の自動車組み立て工場から始まり、「(株) キョードー」の段ボール工場、「岡山四国共和（株）」の配送センター、「アサゴエ工業（株）」の鋳物工場、「(株) 共立精機」の自動車部品製造工場、11月に実施した「モリマシナリー（株）」の自動車用プレス製品製造工場と、現在まで8先の見学を行いました。

見学についてのルールとしては、事前にホームページなどで当該見学先の概要を把握するとともに、見学後3営業日以内に感想文提出が義務づけられています。

見学後は記録係が毎回見学記録を作成して、参加者に配布しています。なお平成22年度はあと2先見学予定となっています。

第1回 診断士カップ（ゴルフ大会）のご報告

平成22年12月9日（木）、会員12名の参加による、第1回診断士カップ（ゴルフ大会）が赤磐市の山陽ゴルフクラブで行われました。

時折小雨が降る天候でしたが、参加者一同、本大会の目的である「会員のスポーツによる相互親睦」が図れました。

参加者の年齢やゴルフ歴も多様でした。年齢は30代～70代と幅広く、ゴルフ経験は、初心者、数年ぶりのラウンドの方、ゴルフ歴の長いベテラン等々…。皆さん難コースに悪戦苦闘しながらも、笑顔が絶えない1日となりました。

ラウンド終了後は、ラウンジで表彰式と茶話会を開催し、解散いたしました。

来年（平成23年）も第2回を秋に開催する予定です。皆さまのご参加をお待ちしております。



写真左から（敬称略）

黒江、神崎、信岡、松本、安藤（覺）、加藤（広）、川路、高瀬、木野内、草野、高杉、川上

第1回診断士カップの主な成績（カッコ内：グロス、ハンデ、ネット）

優勝	川路 隆志 （103、30.0、73.0）
準優勝	黒江 正行 （ 95、20.4、74.6）
第3位	木野内俊典 （ 93、16.8、76.2）
ベストグロス	川上 恵三 （ 88、10.8、77.2）
ドラコン	神崎充、黒江正行
ニアピン	安藤覺、木野内俊典

※ダブルペリア方式、ハンデキャップ上限36.0

事務局よりお知らせ

1. 岡山県支部新年会のご案内

日 時：2011年1月16日（日）

17時～19時

場 所：サンピーチ OKAYAMA

岡山市北区駅前町 2-3-31

tel. 086-225-0631

会 費：5,000円／人（消費税込み）

2. 平成23年度理論政策更新研修（座学）案内

日 時：2011年10月1日（土）

13時～17時

場 所：岡山コンベンションセンター

岡山商工会議所よりお知らせ

マル経融資制度

**無担保
無保証人
低利率**



マル経融資制度（小規模事業者経営改善資金）は、経営改善を図ろうとする小規模事業者の方々をバックアップするため、岡山商工会議所の推薦により、無担保・無保証人・低利率で日本政策金融公庫から融資を受けられる公的融資制度です。

融資限度額
1,500万円

返済期間
 運転資金 7年以内
 設備資金 10年以内
（償還期間は運転資金1年、設備資金2年）

融資条件

担保・保証人
不要

利率
1.85%
（平成22年5月19日現在）
※利率は金融情勢により変わることがありますので、お問い合わせください。

**さらに設備資金貸付については
当初2年間の利率が0.5%低減されます！**

（H22年9月末まで予定）

ご利用いただける方

1. 商工会議所地区内で1年以上事業を営んでおり、所得の申告をしている。
2. 商業・サービス業は従業員5人以下、製造業・その他は従業員20人以下である。
3. 原則として6カ月以前から商工会議所の経営指導を受けており、経営内容が明らかである。
4. 納付すべき税金をすべて完納している。（所得税・法人税・事業税・住民税等）

マル経融資のお申込みから融資・返済まで

①商工会議所へ申込 ▶ ②商工会議所が調査、推薦 ▶ ③日本政策金融公庫が審査、融資

◆お申込み・お問い合わせ◆

岡山商工会議所 中小企業振興部 金融課

〒700-8556 岡山市北区厚生町3-1-15 TEL.086-232-2266 FAX.086-232-5269

西大寺支所

〒704-8116 岡山市東区西大寺中3-6-15 TEL.086-942-0101 FAX.086-942-0103

URL <http://www.okayama-cci.or.jp/> E-mail occi@okayama-cci.or.jp

2011年もよろしく❄️❄️❄️ お願い申し上げます。



岡山県支部会報 第27号

平成22年12月15日 発行

社団法人中小企業診断協会岡山県支部

〒700-0907 岡山北区下石井 2-1-10 KEビル7F

Tel 086-225-4552 Fax 086-225-4554

発行人 支部長 額田 信一

編集人 専務理事 山田 哲男

